

謹賀新年



豊かな資源を活かし、 明日を歩もう



町長
福島 世二

新年明けましておめでとうございます。町民の皆さんとともに、新春を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

東日本大震災から2年目を迎えるようになっています。震災とそれに伴う福島原発の問題は、いまだ解決しておらず、被害の爪あとともいまだ深く、被災地に刻まれたままです。当町におきましても、30 km圏内に泊原発を有し、ことあるごとに原

発の課題・問題は尽きず、昨年は原発・防災にあけくれる一年でありました。

明るい話題としましては、震災以来、町の主要産業である観光業などが大きな打撃を受け続けてきましたが、昨年からの観光客数は震災前と同程度に回復。特に夏の長期滞在客が増加し、外国人数も震災前を上回ってきております。この冬も、ニセコ地区のパウダースノーを求め、国内外から多くの観光客が訪れ、「国際観光リゾート都市」へ一歩一歩近づいております。さらに、町の観光の中核を担う倶知安観光協会が、昨年10月に一般社団法人化され、今後益々の観光振興へ向けて、町と協力して取り組んで参ります。また、40年来の北海道の悲願である北

海道新幹線「新函館（仮称）・札幌間」の工事実施計画が、昨年6月29日、国土交通省により認可されました。これにより、倶知安町に『新幹線駅』ができることになり、定時性と安全性の高い新幹線は、積雪量が多い倶知安にとって、交流人口の拡大・交通便利性の向上・観光振興等に大きな期待を持つことができます。完成は平成47年度の予定と、長い期間を要しますが、今後は開業効果を少しでも早く発揮できるよう、早期完成について、要望活動を継続してまいります。

今年一年が、明るい年になるよう期待するとともに、町民の皆さんのご健勝とご多幸を心よりお祈りし、新年のご挨拶とします。

活力あるまちづくりを 町民とともに



町議会議員
鈴木 保昭

明けましておめでとうございます。希望に満ちあふれた新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年末には国政選挙があり、新たな枠組で国民が景気回復、雇用確保、社会保障などに期待されるところであります。「地方行政は国の政策により左右されることも多くあり、地方の経済がより活性

化される地方をしつかりと考えた政治」を期待しております。

倶知安町議会も開かれた議会を目指して議会改革も進み、インターネットによる会議録検索システムは面倒な手続きも一切なく、自宅で町政の要である議会の審議のすべてを見ることができるようになりました。

また、次年度にはインターネットを利用した議会審議中継など、少ない経費で大きな効果を得ることのシステムの構築にも取り組んで参ります。

議会には町民の皆様から町政へのさまざまなご意見・ご提言を頂いておりますが、多くの課題も積み残しております。地域医療・教育、特に学校給食セン

ターの改築の問題、さらに町政の柱である役場庁舎は耐震力がなく、危険度が高いと診断されています。住民の皆様に必要な住民基本情報をはじめ、税、教育などの情報が一瞬にして失われる可能性もあります。より多くの皆様のご意見を聞きながら、計画を進めるべきであります。新幹線・高速道路など明るい展望も見えておりますが、当面する課題を皆様のご意見を伺いながら、決意も新たに議員の活発な議論の中で、希望に満ちた倶知安町を作って参りますので、変わらぬご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、町民の皆様が健康で幸せな1年になりますことをご祈念申し上げます。私の新年のごあいさつといたします。